

主 題：互いに助け合いなさい 3
聖書箇所：随所

テサロニケ人への手紙5章14節をご覧ください。私たちはもう繰り返して学んで来ました。私たちクリスチャンとはどういう人なのか？どういう務めを神から頂いているのか？皆さん、思い出してください。主なる神の証をする人、それがクリスチャンだと、そのことを繰り返し学んで来ました。この地上にあって、私たちの主がどんなにすばらしい神なのか、どんなに偉大なお方なのかを人々に証する、その務めを頂いているのが私たちクリスチャンだと。そのために私たちは何をしたら良いのか？どのように生きていくべきなのか？どのようにして私たちはこの生かされている目的、神の偉大さをこの世にあって証していくのか？そのことを見て来ました。五つのことがありました。そのことは繰り返し覚えて頂きたいと思います。そして、その後、それを実践するに当たって、兄弟姉妹としてどのように助け合っていくのか？そのことを前回から学び始めた訳です。

個人として何をすべきかは分かりました。では、群れとしてどのように助け合ってその目的を達成していくのか？そのことを前回から学び始めたのですが、全部で六つあると話しました。先週はその中の一つを学びました。この神のすばらしさをこの世にあって証するために、私たちは互いに「戒め合っていくこと」が必要だと見たわけです。

1. 互いに戒め合う

戒め合っていくときに注意しなければならないことがありました。戒め合う目的です。多くの場合、だれかの弱い所を指摘すると、それによって人間関係がおかしくなってしまうたりします。そのようなことを経験された方もおられるでしょう。ひょっとすると、皆さんの中で「だから、私は人の弱さを指摘するのはいやです。苦手です。問題をこじらせたくない、健全な人間関係を保っておきたいから。」と言われる方がいるかもしれません。でも皆さん、みことばが教えることを行なう時に神が働きます。私たちに必要なことは「戒め合う」ことです。でも、そのためには注意しなければいけないことがあるのです。やってはならないことは、相手に自分の怒りをぶつけて自分の怒りを晴らすことです。これはしてはいけないことです。なぜなら、それは目的を忘れているからです。目的はあくまでも、その人も自分もクリスチャンである以上、この神のすばらしさを証するために生きていこうとすることです。その証を邪魔する罪を犯している場合、「あなた、それは間違っている。」と指摘するのです。これは神の前に喜ばれる生き方をしていくために、私たちは愛する兄弟姉妹としてそのことを指摘し合うということです。ですから、この戒めの目的は、その人が犯している罪から離れてもう一度正しい道を歩み始めることです。そして、神のすばらしさを証するというその本来の歩みをするために「戒めを為しなさい」とみことばが命じたのです。

同じ目的を持っています。この神のすばらしさ、この救いのすばらしさを伝えたい、そのときにそれを邪魔する罪をお互いに注意しながら、指摘し合いながら、神のすばらしさを証していくこと、それが目的でなければならないということです。

2. 互いに励まし合う Iテサロニケ5：14

兄弟姉妹が助け合いながらこの神のすばらしさを証するという目的をどのように果たしていくのか？二つ目は「互いに励まし合う」ことです。Iテサロニケ5：14「兄弟たち。あなたがたに勧告します。気ままな者を戒め、小心な者を励まし、弱い者を助け、すべての人に対して寛容でありなさい。」「小心な者を励まし、」ということです。この「励ます」ということばは「話しかける、力づける、慰める」という意味で、新約聖書の中に4回出て来ます。

1) 悲しみの中にある人々を ヨハネ11：19, 31

その中の2回はある出来事の時に使われています。それはラザロが亡くなった時のことです。ヨハネの福音書11章に書かれていますが、ラザロが亡くなった後、人々はマルタとマリヤを慰めるために集まっていた様子が記されています。悲しみの中にいるこの愛する二人の姉妹たちに対して、人々は集まって来て慰めたのです。その時にこの「励まし」ということばが使われています。ヨハネ11：19、31「:19 大ぜいのユダヤ人がマルタとマリヤのところに来ていた。その兄弟のことについて慰めるためであった。…:31 マリヤとともに家にいて、彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリヤが急いで立ち上がって出て行くのを見て、マリヤが墓に泣きに行くのだろうと思い、彼女について行った。」

2) 信仰的に弱い人々を

また、今日のテキストを見ると、この「励まし」に関してパウロは特に「**小心な者を励まし**」と語っています。「小心」とは「落胆した、ガッカリした」という意味です。このギリシャ語は「小さい」と「心」という二つのことばが元になっています。この意味は「気の弱い、臆病な、心配、不安、落ち込む、自信を失う、恐れる」と、まさに、私たちが「小心者」を定義するときこのような意味が出て来ませんか？非常に気が弱くて臆病で、いろんなことに心配して不安を持っていて、すぐに落ち込んでしまって自信をなくしてしまって、いつも恐れている人です。このような人のことがここに記されているのです。そういう人に対して彼らを励ますのです。パウロは同じIテサロニケの2：12でこのように語っています。「**ご自身の御国と栄光とに召してくださる神にふさわしく歩むように勧めをし、慰めを与え、おごそかに命じました。**」と。確かに、ここでも、クリスチャンたちが神の前にふさわしく歩み続けていくように、慰めを与え続けていたと教えています。

さて、どのようにして彼らを励ましていくのか？この「小心な人」ということをもう一度見ると、彼らにとって一番大切なことは「**信頼を学ぶこと**」だと思いませんか？彼らは神を信頼することを学ばなければいけないのです。なぜなら、彼らは気が弱く臆病であって、いつもいろんなことに心配し不安を抱き、すぐ落ち込んでしまって自信を失って恐れてしまう人たちだからです。彼らがそういう弱さを克服するためには「**神に信頼する**」ということ学ばなければいけないのです。

もしかすると、彼らの問題は、神に信頼するのではなく自分の知恵や力でやろうとすることかもしれません。それなら納得できます。神が「**こうしなさい**」と言われるのに、それを自分の力でやろうとすると必ず失敗の連続です。そうするとだんだん自信が無くなってきます。「**自分はもうだめだ…**」と。信仰というのは、自分にできると思うことをするのではありません。自分にできることをするのは信仰ではありません。神が「**せよ！**」ということを神の力によって行なうことが信仰です。私たちが学ばなければいけないことは「**私たちの力は神にある**」ということです。どれ程人間的な訓練を受けて来たとしても、私たちには常に神の助けが必要だということです。

思い出してください。あのすばらしいイスラエルのリーダーであったモーセのことです。神がモーセにイスラエルの民をエジプトから解放するその働きをしなさいと言われた時に、彼は「**分かりました、主よ。喜んで行きます。**」とは言いませんでした。出エジプト記4：10、11に「**モーセは【主】に申し上げた。「ああ主よ。私はことばの人ではありません。以前からそうでしたし、あなたがしもべに語られてからもそうです。私は口が重く、舌が重いのです。：11【主】は彼に仰せられた。「だれが人に口をつけたのか。だれが口をきけなくし、耳を聞こえなくし、あるいは、目を開いたり、盲目にしたりするのか。それはこのわたし、【主】ではないか。」と記されています。神はモーセのうちに働くのです。そこでモーセが学んだことは「自分の力で神の命令に従うことではない。神の助けによって力によって、神の命令に従うことだ。」と。ですから、出エジプト15：11には「**【主】よ。神々のうち、だれかあなたのような方がいるのでしょうか。だれがあなたのように、聖であって力強く、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行うことができましょうか。**」とあります。モーセもそのレッスンを学んだのです。「**神さま、力は私のうちにあるではありません。あなたのうちにあります。**」と。あなただけが神だ、その方に頼って生きること、それがいろいろな不安を払拭するためのカギです。小心者が信仰において成長していくためのカギ、それは「**主への信頼を学ぶこと**」です。**

天使とマリヤが会話をしている時に、「**神にとって不可能なことは一つもありません。**」（ルカの福音書1：37）と天使は告げます。皆さんそのことを信じていますか？皆さん「**アーメン！**」と言いますか？同じルカ1：45には「**主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。**」とあります。マリヤは人間的に不可能と思えることがこれから起こると言われたのです。処女である彼女が男の子を生むことなど不可能です。しかし、神がなされる時にその不可能は不可能で終わらないのです。神が働く時に人間的に不可能と思えることも可能になるのです。なぜなら、全能の神が働くからです。こうして人々は大切なレッスンを学んでいるのです。神に信頼して生きることがどんなに私たちにとって力なのかです。

ですから、信仰の成長というのは、自分に頼ってきた私たちが、神に頼って生きる者へと変えられていくのです。私たちがこの神のすばらしさを世に証していくために必要なことは、私たちが互いに励まし合いながら、どんな時でも主に信頼をおいて生きる者へと変えられていくこと、そのために助け合っていくことです。目を自分に向けるのではありません。目を神に向けなければいけません。この方に信頼を置かなければいけないのです。この方だけが私たちの力なのです。感謝なことに、全能の神があなたにその助けを与え続けてくださる。神にとって不可能なことは何一つないのです。この全能の神があなたとともにいてくださると言います。

3. 互いに助け合う

Ⅰテサロニケ5：14「**弱い者を助け、**」と続きます。実際に、この「助ける」ということばは「世話をする、心に掛ける、面倒を見る」という意味をもっています。弱い者に対してそうするのです。この「弱い」とは、多くの場合「肉体、身体が弱い」と使われるのですが、ここでは「**道徳的、霊的に弱い人、信仰的に弱い人**」を指しています。そのような人たちに関心を払いなさいと言うのです。そして、彼らの信仰が成長するために助け続けてあげなさいと言っているのです。だから、私たちは周りを見渡してみるのです。教会に来てまだ日が浅い人たちがいます。信仰を持ってまだ新しい人たちがいます。そういう人たちを助けるという、その務めがあなたに与えられているというのです。

私たちの信仰は、これまでは自分を見ていました。救われる前の私たちは全部自分が中心でした。ですから、自分がふさわしい扱いを受けなかった場合、私たちは怒りを覚えて来ました。「いったい、私をだれだと思っているの！」と。しかし、私たちがこの救いに至った後、信仰の成長とともに、自分がどう思われるかということなどどうでも良くなったのです。そして、自分を見ていた私たちの目は、自分から周りを人たちに移って、どのようにしてこの人たちを助けていこう？どのようにしてこの人たちの信仰が成長するように助けていこう？どのようにしてこの人たちを励ましていこう？どのようにすればこの人たちがもっと幸せになるのか？と、そのことを考えて生き始めるのです。それが信仰者として信仰が成長している姿です。

旧約聖書も新約聖書も教えることですが、神が一番望んでいることは「心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛すること」です。それが一番、そして、続いて言われていることは「あなたの隣人を愛すること」です。神を愛し、隣人を愛する、自分はその後です。信仰を持った後、私たちの優先順位は全く変わりました。自分を愛して自分が一番であった私たちが、自分よりも神を愛し、自分よりも隣人を愛する者へと生まれ変わったのです。

ですから、私たちはこうして教会に集まって来た時に、周りを見渡して、休んでいる人に関心を持つのです。「あの兄弟は、あの姉妹はどうしていらっしゃるのか？そのために何をすれば良いのか？」と。関心を持つとまず祈りが出て来ます。「神さま、どうしましょう？どうしておられるのか？体調を壊していないでしょうか？」と、その祈りから始まって、連絡を取ってみよう…、そのようにして助け合っていくのです。みことばが勧めているのはまさにこういうことなのです。

1) 寛容

そして、14節の終わりに「**すべての人に対して寛容でありなさい。**」とあります。実践するとき大切なことは「寛容であること」です。この「寛容」とは「寛大」という意味もありますが、「忍耐強くある、我慢強い」ということです。人々はなかなか変わって来なくても、短気になるのではなく忍耐をもって我慢強くその人たちを助けてあげなさいと言います。

2) すべての人に対して

しかも、このみことばは「**すべての人に対して**」とあります。どんな人に対しても忍耐をもってやりなさいと。正直言って、私たちは忍耐において改めなければならないことが多いです。忍耐をもってやりなさい、忍耐をもってすべての人に寛容でありなさいと。そのためには私たち一人ひとりが、私に対する主の寛容さを覚えることから始まるのです。神がどれ程あなたに対して我慢強かったのか、忍耐強かったのか、そのことを覚えることです。ずっと神に逆らい続けて来たあなたに対して、神は諦めなかった、神はあなたに働き続けてくださったのです。ですから、パウロはローマ書9：22でこのように言っています。「**ですが、もし神が、怒りを示してご自分の力を知らせようと望んでおられるのに、その滅ぼされるべき怒りの器を（これは私たちのことです）、豊かな寛容をもって忍耐してくださったとしたら、どうでしょうか。**」と。パウロは神に逆らい続けていた私たち、神の敵として生きていた私たちに対して、神は寛容を持って接してくださった。だから、私たちクリスチャンはそのことを覚えて、そして、その寛容さを人々に示しなさいと言うのです。

もちろん、これには条件があります。もし、だれかにそのように働いて、そして、その人が信仰的に成長することを一生懸命助けようとするのですが、時に、その人たちが全くそのことに関心を持っていないケースがあります。信仰の成長のためにあなたが一生懸命助けようとしても、その人が全くそれを歓迎しないケースがあります。その場合は例外です。その人が本当に成長したいと思わなければなかなか成長しません。その人が本当に変えられたいと思っていなかったら、なかなか変わりません。祈り続けることはできます。しかし、時に、私たちは神の知恵を頂いて、そのような時間をストップしなければいけないかもしれません。私たちがカウンセリングの授業のときによく学んだことの一つは、必ず、その人に宿題を出して、その人が宿題をして来てその人が変わろうとしているなら喜んで時間を取るけれ

ど、もし、その人が宿題をしないで変わることも望んでいないなら、「このカウンセリングは空しいです」と言ってそのセッションを終えることもあるということです。変わりたいなら私たちは喜んで助けようとしません。そのためには私たち自身がまず変わりたいという願いをもって変わり続けていくことが必要です。そして、同じ思いをもって私たちは互いに助け合っていくのです。

4. 互いに慰め合う

四つ目に「互いに慰め合う」ということがⅠテサロニケ4：18に教えられています。「こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。」と。確かに、この4章では、もうすでに死んでしまった人たちは、神のこのすばらしい祝福を逃してしまったのではないかとということが記されています。その祝福とは「キリストの再臨」のことです。そのことが13節から記されていて、パウロは神の真理をもって心騒いでいる人たちに慰めてあげなさいと勧めているのです。でも、確かに、みことばは「互いに慰め合いなさい」と教えます。この「慰め合う」とは「励ます、元気づける、なだめる、戦い続けるように励ます」ということです。これは動詞形ですが、新約聖書の中に109回出て来ます。

1) 主の慰めを覚えるように

「励まし合っていきなさい」「互いに元気づけていなさい」、「互いに戦い続けるように励ましていなさい」と言われるのです。そのためには、まず、私たち一人ひとりが主の慰めを覚えることが必要です。Ⅱコリント1：4に「神は、どのような苦しみのときにも、私たちに慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人をも慰めることができます。」とあります。皆さんに注意して見ていただきたいのは、ここには「慰める」ということばが3回記されていることです。「私たちに慰めてくださいます。」は現在形で書かれています。次の「神から受ける慰めによって」、これも現在形です。「慰めることができます。」、これも現在形です。みことばは、神は信仰者であるあなたを慰め続けてくださると教えています。継続して、神はあなたを慰め続けてくださる、励まし続けてくださるということです。そして、あなたが日々神から頂くその慰めを受けることによって、あなたも人々を継続して励まし慰め続けていくことができますのです。間違いなく、ここにおられる信仰者の皆さんは、そのことをいろんな時に経験されているはずで、神が慰めをくださる、神がみことばを通してあなたの心を励ましてくださる。ときに、神はあなたの身近におられると、そのように頭で分かっていることを「本当にそうだ！」と実感をもって感謝する、そのようなことがあったでしょうか？

私たちはこの信仰生活を通して、神からいただくありとあらゆる機会を通して、神が私たちのそばにいてくださることを教えられ続けています。神が私たちに慰めをくださるのです。その慰めを頂いた私たちは、その慰めを人々に与える者たちです。同じⅡコリント7：6には「しかし、氣落ちした者を慰めてくださる神は、テトスが来たことによって、私たちに慰めてくださいました。」とあります。そのような神だと言うのです。

最初に、このことばは新約聖書の中に109回出て来ると話しました。これは動詞形で出て来ます。でも、名詞形になると新約聖書の中にわずか5回しか出て来ません。その中の一つがイエスが「父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。」(ヨハネ14：16)と言われた「助け主」ということばです。ですから、パウロはここで、神は私たちにすばらしい慰めを与え続けてくださる。なぜなら、この方は私たちを慰め助けるために与えられた神だからです。その神があなたとともにいてくださる。その方によってあなたは日々慰めを与えられる。そして、その慰めを頂いたあなたは「他の人たちを励ましてあげなさい。彼らを慰めてあげなさい。彼らを元気づけてあげなさい。」と、パウロはそう言うのです。

助け主が与えられているのですが、問題はその助け主に助けを求めているかどうかです。あなたの信仰生活においてあなたは主に助けを求め続けているかどうかです。あなたが助けを求めなければ、助けを得ることはないからです。そして、あなたが神の前に助けを求めたときに、その状況は変わらなくても、少なくともあなたの心が変えられます。これまで持っていた不安から平安に、そして、神への疑いから神への確信へと変えられていきます。ですから、私たちが慰め合っていくためには、慰められている私たちが、神からの慰めを十分に頂いている私たちが、まず、その慰めを覚えて、その慰めを人々と分かち合っていくのです。

2) 主に従順であるように

また同時に、私たちはお互いに主に従順であり続けるように励まし合っていくことが必要です。主に對して従順であるように慰め励まし合っていくのです。ヘブル3：13に「「きょう」と言われている間に、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされてかたくなにならないようにしなさい。」とあります。実は、

このヘブル書では「きょう」ということばが強調されています。著者は「いのちのある間に」と言うのです。なぜなら、死んでしまったら何もできないからです。生きている間に、まだ、機会のあるうちに、お互いに神に信頼するように、神に服従するように慰め励まし合っていきなさいと言うのです。

「日々互いに励まし合って」とあります。だから、私たちは兄弟としていろんなことを経験する中であって、しっかりと目を主に向けて、そして、主に対して従い続けていくように。また同時に、主に信頼するように、主の約束にしっかり立つようにそのことを教えることが必要です。

3) 主を信頼するように

先程、「小心者」のところで見ましたが、神に対する信頼を失ってしまっているからぐらつくのです。神がどんな方であるかをしっかり覚え、どんな約束をくださっているかをしっかり覚えることによって、私たちの土台はしっかりしていきます。皆さんはこの出来事を読んだ時にどのように感じられたのか、確認したいと思います。イエスがガリラヤ湖にあって弟子たちを連れて向こう岸に行こうとされたときです。彼らは船に乗って出かけました。すると、突風が吹いてくる訳です。恐らく、西側からの突風でしょう。今でも、それは起こります。私たちもイスラエル旅行の時に一度経験したことがあります。テベリヤからカペナウムに向かっていく時に西側から突風が吹いて来ました。今の船はモーターが付いていますが、それでも波がだんだん荒くなって前に進めなくなるのです。この当時、突風が吹いて来ると当然、自分たちの力で前に進むことはできません。見る見る内に、先程まで凪だった湖が荒れ狂い始めます。間違いなく恐怖心を抱きます。その時の様子がルカの福音書8章に描かれています。「:23 舟で渡っている間にイエスはぐっすり眠ってしまわれた。ところが突風が湖に吹きおろして来たので、弟子たちは水をかぶって危険になった。:24 そこで、彼らは近寄って行ってイエスを起こし、「先生、先生。私たちはおぼれて死にそうです」と言った。イエスは、起き上がって、風と荒波とをしかりつけられた。すると風も波も収まり、なぎになった。:25 イエスは彼らに、「あなたがたの信仰はどこにあるのです」と言われた。弟子たちは驚き恐れて互いに言った。「風も水も、お命じになれば従うとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」、この出来事を読んだとき、皆さんはどう思いましたか？「弟子たちは何という信仰者だ。信仰…弱いな。イエス様がいっしょにいるのに、イエス様と一緒に船に乗っているのになぜ恐れるのだろう？」と思われた方もいるでしょう。

そこで、私が聞かなければいけないことは「聖霊なる神が常にあなたとともにおられるのに、なぜ、あなたは恐れるのか？」です。イエスがおられた当時、イエスは24時間ずっと弟子たちとともにいた訳ではありません。ときに、イエスは彼らから離れてご自分で祈っておられました。しかし、今の私たちは聖霊なる神が24時間、365日、絶対にあなたを離れることなく常にともにいてくれるのです。この弟子たちの恐れた様子を見て私たちはいろんなことを思うでしょう、問題は、では、私たちがどうなのか？です。このようすばらしい特権に与っていながら、私たちは日々の歩みにおいて、恐れていないかどうか？です。私たちが学ばなければいけないのは、主に信頼するというすばらしいクリスチャンに与えられたこの祝福です。だから、私たちクリスチャンは互いに励まし合うのです。「主を覚えよう！どのような神なのか？どんな祝福に与っているのか？どんな特権を頂いているのか？それをしっかり覚えよう！」と、そうして、私たちは慰め合い、励まし合い、元気づけていくのです。

5. 互いに祈り合う

ヤコブ5：16に「ですから、あなたがたは、互いに罪を言い表し、互いのために祈りなさい。いやされるためです。義人の祈りは働くと、大きな力があります。」と記されています。確かに、初代教会の人たちを見てもそうです。彼らは互いのために祈り合っていました。では、何を祈るのでしょうか？

1) 互いの霊的成長のために

彼らが祈ったことの一つは「互いの霊的成長のため」です。コロサイ1：9には「こういうわけで、私たちはそのことを聞いた日から、絶えずあなたがたのために祈り求めています。どうか、あなたがたがあらゆる霊的な知恵と理解力によって、神のみこころに関する真の知識に満たされますように。」とあり、同じコロサイ4：12にも「あなたがたの仲間ひとり、キリスト・イエスのしもべエパfrasが、あなたがたによろしくと言っています。彼はいつも、あなたがたが完全な人となり、また神のすべてのみこころを十分に確信して立つことができるよう、あなたがたのために祈りに励んでいます。」とあります。ですから、その当時、コロサイの教会でも、教会の中だけでなく教会外の人たちのためにも祈っていたのです。

ですから、私たちも多くの人たちのために祈るのです。どうぞ、皆さん、先ほども話したように、教会の中で休んでいる方や、また、教会員名簿を見て、神があなたに重荷をくださったら祈ることで。重荷がなくてもお互いのために祈ることで。

2) 互いのことを主に感謝する

この祈りに関してもう一つ言えることは、お互いのことを主に感謝することです。「神さま、この人のことをあなたに感謝します。」と。もし、私たちがこの群れの中で、祈りの時だけでなく、普通するときでも「兄弟、あなたに感謝します。あなたは今日私の祝福となってくれました。」と、そのように私たちの間であいさつできるようになれば、本当に心から「兄弟、あなたの信仰は私の励ましになりました。」と、そのように言い合うことのできる兄弟姉妹になったら、間違いなく、私たちは成長していきます。なぜなら、私たちはお互いに成長するためにいるからです。感謝すべきではないですか？お互いのことを！ いろいろなことを通して、いろいろな人を通して私たちは学んでいるのです。

パウロはIテサロニケ1：2で「私たちは、いつもあなたがたすべてのために神に感謝し、祈りのときにあなたがたを覚え、」と言っています。彼は感謝していたのです。私たちも今日から始めましょう。祈るべきリストがあったらその人たちのことを神に感謝しましょう。

6. 互いに成長し合う

最後の六番目です。これまで私たちが見て来たことは、クリスチャンとしてこの世にあって神のすばらしさを証していく、そのために何をしなければいけないのか？ということ。個人として何をしなければいけないのかを学んで来ました。そして、兄弟姉妹としてどのように助け合っていくのかを見て来ました。一つ目は「戒め合うこと」でした。また、「互いに励まし合うこと」でもありました。「互いに助け合っていくなさい」と、助け合うとは「世話をするとか、心に掛ける」ということでした。

「互いに慰め合っていくなさい」、そして、「互いに祈り合っていくなさい」です。最後に、私たちが見るのは「互いに成長し合っていく」ということです。

私たちが集まったときに考えるべきことは「信仰の成長」のことです。もちろん、楽しい会話も必要です。でも、どうすればこの兄弟の、この姉妹の信仰の成長に役立つことができるのかです。もちろん、彼らを通して自分の信仰も成長します。では、自分はどのようなことをすれば彼らの信仰の成長に役立つことができるのかを考えるのです。パウロはローマ14：19で「そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つことを追い求めましょう。」と言っています。皆さん、虚しい会話は時間のロスです。それは決して楽しい話をしてはいけないということではありません。でも、それしかないなら虚しいではないですか？クリスチャンが集まるときは、その機会を通して、一人ひとりの信仰が成長することを目的に私たちは時間を取ることです。

ローマ書15：2でパウロはこのように言います。「私たちはひとりひとり、隣人を喜ばせ、その徳を高め、その人の益となるようにすべきです。」と。隣人の益のためにすべてのことをすべきだと言います。だから、彼らの躓きになるようなことはしないでおこうとするのです。また、パウロはエペソ4：29でもこのように言います。「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」と。なぜ、このようなことが教えられているのでしょうか？もう一度思い出してください。

*** あなたは「何のためにあなたが救われ、何のために生かされているのか？」その目的です。**

それは「主のすばらしさをこの世にあって明らかに示し続けること」です。あなたの神がどんなにすばらしい神であるかを、あなたはこの世で証するという責任があるのです。だから、霊的成長というのは、あなた自身が主イエス・キリストに似た者に変えられていくことです。救われたその瞬間から聖霊はその働きを始めてくださった。そして、私たちがイエスにお会いした時、私たちはイエス・キリストに似た者になるのです。その途中で今私たちはいるのです。神はあなたをキリストに似た者に変えようとしてくださっている。だから、私たちは自分自身がそのような者に変えられることを望んで、主の前を正しく歩んでいくのです。そして、愛する兄弟たちも同じようにその歩みを為すために助け合っていくというのです。それは私たちが生かされている目的、主のすばらしさを証するという目的だからです。ですから、霊的成長なくして主のすばらしさを証することはありません。だから、私たちは互いに助け合うことが必要なのです。

自分の弱さにはなかなか気づきません。だから、必要なのです。そういうことを指摘してくれる人が。必要なのです。自分は弱いから祈ってくれる人が。必要なのです。だれかが励ましてくれるように…。それをだれかに期待するのではなく、あなたがその役を担っていきなさい、それをあなたがするのですということ。です。

私たちはこうしてこの群れの中であって、互いに励まし合いながら成長していきます。そのような働きを皆さんはしておられますか？「神さま、どうぞ、私を使ってください。この兄弟の成長のために」と、その祈りをもって日々を過ごすことです。彼らと時間を過ごす時にそのことを祈りながらその時間を取るのです。

私たちが望んでいることは、個人として、そして、群れとして我々の救い主がどんなに偉大な方であるかを、世の中に、人々の前に明らかにすることです。そのために助け合っていきなさいと、それを実践しましょう！！それが神が私たちに命じておられることです。

《考えましょう》

1. 「どのようにして助け合うのか？」を学んで来ました。しかし、お互いが実際に助け合うためには何かが必要なのですが、それは何だと思えますか？
2. あなたの信仰が成長するためには、どうすれば良いのかをお書きください。
3. あなたの周りの兄弟姉妹が成長するために、あなたは何をすれば良いと思われますか？
4. お互いの霊的成長に役立つことには、どのようなことがあるのかをお書きください。